

7 鳥城校舎 ひとつの敷地にふたつの学校



昭和24年、学制改革により一高と二女高が合併して岡山朝日高等学校となり、旧一高は中山下校舎（岡山城本丸内）、二女高は中山下校舎（旧旭中、現岡山中央中学校の地）となった。昭和25年から国富校舎（六高跡、現校地）に順次移転を始め、最終的には、昭和28年8月末日に移転を完了、昭和17年に岡山夜間中学として設立された鳥城高校もこの時に現校地へ移転した。

六高から受け継いだH字型平屋の旧本館に1年生が入り、2、3年生は新しく建てられた二階建校舎を鳥城高校と共に使用した。当初旧本館には廊下のところどころに大きな穴があり、椅子を置いて塞いだ。また、教室をネズミが走ることもあった。二階建校舎は同じ教室、同じ机を夜は鳥城高生が使っており、その鳥城高生と文通する者もいた。左の写真の二階建校舎は8教室からなり、2棟あった。その南側の平屋の普通教室棟も使われた。

旧本館と二階建校舎の間の中庭には桜の木があり、生徒の心を大いに和ませた。校内のあちこちにあった桜の木は、すべて運動場の南側の塀に沿って移植され、今は見事な桜並木になっている。

階段校舎が建てられて朝日高生が順次そちらに移り、昭和44年7月から二階建校舎は鳥城高校専用校舎となった。鳥城高校は平成9年に伊島町の生涯学習センター内に移転し、校舎は取り壊された。

現在、鳥城高校の跡地には北棟が建つ。玄関を入ると、事務室、校長室、職員室が並ぶ。2階以上が普通教室である。

（昭和46年卒 間野 糸子）

8 取り壊される木造校舎の玄関



私が2年生に進級した年の春、木造校舎の取り壊しが始まった。新聞部員としてこれを記録に残しておこうと写した写真の一枚がこれ。ネガ袋には昭和45年5月3日と書かれている。雨の中の撮影だった（記録によればこれは二期目の解体工事だという）。

入学試験の時学校別に整列したのがこの玄関前。引率の先生の注意を聴きながら切妻に取り付けられた校章を見上げたのを今も憶えている。玄関を挟んで左右に教員室などが有り、その先で東に長く教室が延びていた。合格発表で自分の名前を見つけたのは校舎の北側の壁だ。すでにその時建物はボロボロで、廊下にはあちこちにベニア板で補修がしてあった。

入学後まもなく私たちは打ちっぱなしのコンクリートの臭いが生々しい「階段校舎」に入る。このためこの校舎に深い思い出は無いが、いざ取り壊しが始まってみると、棟の構造材がむき出しとなって痛々しかった。朝日高校の一つの歴史が今閉じられようとしている。そんな気持ちでシャッターを切った。玄関に取り付けられていた校章がどうなったのか気になったが、取り外されて今でも保存されていると言う。

この玄関は校門を入ってすぐの所に有った。今同じ場所にカメラを向けても、写るのはアスファルト舗装だけ。ツツジやソテツの植え込みは少し北に移動していた。当時はおそらくそれほど必要の無かった駐車スペースが、校門を入ってすぐのところに設けられている。そして何より驚かされるのがクスノキの成長ぶりだ。木造校舎の取り壊しからおよそ半世紀。変貌したのは校舎だけではない。

（昭和47年卒 小松原 貢）